

# 金鷹山

令和4年(2022)9月1日発行

## 通巻第15号

発行所 若宮八幡社社務所  
〒873-0004  
大分県杵築市大字宮司336番地  
発行者 宮司 紀田兼宣  
電話 080(5503)3488

金鷹山 若宮八幡社 [検索](#)

神社公式ホームページ開設しております。御覧ください。

祝祭日には国旗を掲揚致しましょう

七五三祈願を承ります(年内祈願可能です) / 新嘗祭に秋の収穫物の奉納を承ります



昨年の若宮楽

### 祭事の 予告

九月十一日(日)

仲秋祭

午後二時

若宮楽の奉納(大分県無形民俗文化財)

親神様であります京都男山に鎮座される石清水八幡宮の例祭(勅祭)を寿ぐと共に、秋の  
稔り多きことと感染症の一日も早い収束を若宮八幡社の神様にお願ひ申し上げます  
この日のために、北杵築地区と宮司区の子供さん方が一所懸命に練習を行いました  
若宮楽は感染症の対策を講じて行いますので、皆様方のお越しを心よりお待ち申し上げます  
おります(予約不要・無料)

### 令和4年度 若宮八幡社名簿

宮 司	紀田兼宣
責任役員	吉水謙二 〈宮司区〉宮司、馬場尾、守末、中ノ原、菅尾
責任役員	河野秀則 〈西溝井区〉西溝井、二ノ坂
総 代	本多泰久 〈宗近区〉宗近、錦江、杉山、東下司、西下司、下原、中平
総 代	井上 剛 〈南台西区〉南台西、南台東、北台、西上、仲町、天満、弓町
総 代	木本武雄 〈塩田区〉塩田、錦城、北浜、中央、城山、谷町、魚町、据場
総 代	小田 博 〈古野区〉古野、西新町、札ノ辻、北祇園、南祇園、煙硝倉
総 代	渡邊勝富 〈大片平区〉大片平、船部
総 代	秋山太郎 〈東溝井区〉東溝井、中津屋
総 代	下枝四郎 〈鴨川区〉鴨川、岩谷

### アクセスマップ





参道石畳を左右に分かれて参進します



国民文化祭での若宮楽

# 若宮楽の存続と楽白須詞

九月十一日(日)に奉納される「若宮楽」。保存会のメンバーとして永らく若宮楽に携わってこられた地元鴨川にお住いの西豊之輔様にご寄稿を戴きました

鴨川在住 西豊之輔

戦前戦後古くから続く杵築若宮八幡社での「若宮楽」奉納の存続が危うくなったのが昭和五十九年である。その年から昨年の令和三年まで「若宮楽」奉納の様子を辿ることにする。

古く杵築市誌にもあるように「若宮楽」の構成メンバーは、北杵築小学校区の中津屋と大鴨川の両地区より大人の世話役五人に男子小・中学生の踊り役二十二人となつている。

昭和五十九年、男子小・中学生数が減少し、鴨川全地区(大鴨川・迫・山迫・中筋・五田)の男子小・中学生に参加の要請がされて人数の確保が出来た。

昭和六十年からは、中学生の参加が少なくなり、今年まで「若宮楽」奉納の様子は一人もいない。

平成十一年、男子小学生だけでは人数が不足、中津屋と鴨川全地区の女子小学生も「若宮楽」の踊り手となった。

十年過ぎて平成二十一年、人数が不足し、北杵築小学校とPTAに要請。全校区から参加児童数を増やすことができた。しかし、少子化の波に耐えられない。

平成二十九年、小学生数が不足となり、杵築若宮八幡社の位置する宮司区と校区の杵築小学校に参加の要請書を出し、幸運にも賛同を得た。

令和二年はコロナ対策として「若宮楽」を中止したが、昨年の令和三年は、連続で中止とならないよう奉納を強行した。

練習場所が増えたため練習日数が半分になり、二期が八月末に始まることや、小学六年生が修学旅行に行く時期との兼ね合いもあり毎年練習日の確保には苦勞が絶えない。

平成十九年、中井研一氏(故人)神官が「若宮楽」奉納の時に「楽白須詞」(かくをもうすことば)を奏上するよう提言してきた。

古く杵築市誌に「若宮楽」奉納の一行(世話役と小・中学生)が鳥居から石段を参進し拜殿前で隊列を円形に整えた時に世話役の代表が「楽白須詞」を奏上する...とある。

しかし、見た人はいない。奏上の文を述べると、

『抑モ大神ニ楽ヲ奏スル由来ハ、昔神功皇后三韓御親征ノ時、朝鮮語ヲ以テ、戦ノ号令トナス。三韓皆大ニ畏レテ降伏ス。依テ此ノ符号ヲ以テ楽符トナス。其後松平氏、杵築ニ封ゼラレ、下向ノ際海上暴風雨ノ為メ、船沈没セントス。松平氏若宮八幡宮ニ祈請シテ、其ノ難ヲ免ルルコトヲ得タリ。依テ入城後、楽ヲ再興シ八幡宮ニ奉奏ス。今ニ楽ヲ奏シテ大神ノ御心ヲ慰メ奉ル所以ナリ』とある。

その年より今は亡き中井神官の進言を守り、事務局で奏上を続けてきたが、今年には担当者が引退した。

平成三十年十月二十日、大分県内各地区で第三十三回国民文化祭の開会式があり、杵築市では「若宮楽」を披露した。

「楽白須詞」の奏上で、もしものことがあつては...と心配することがあり、「神功皇后の三韓御親征(征伐)と「戦」・「降伏」をカットし平和的友好的な表現にした。

「其後松平氏、杵築ニ封ゼラレ」は、正保二年正月松平英親が杵築城三万二千石に封ぜられたことである。それ以後、文久二年まで洪水、暴風雨、早魃、飢饉の記録は中野博行氏の「杵築藩災害記録年表・一覧表(杵築郷土史研究会会報・平成八年刊行)に詳しいのでご覧下さい。



石清水八幡宮

# 親神様 京都男山鎮座 石清水八幡宮 御由緒

勅祭「石清水祭」を寿ぎまつりて

若宮楽が奉納される日は、当日午前に「仲秋祭」が行われます。以前は九月十五日(旧・敬老の日)と決まっておりましたが、敬老の日が第三月曜日に変更となり、九月十五日が平日の場合、若宮楽を奉納する子供たちが学校を休めなくなることを鑑みまして、現在は、九月中旬の日曜日に行うこととなりました。

この九月十五日は、当社の元宮である京都男山に鎮座する石清水八幡宮の勅祭

「石清水祭」が斎行される日です。この石清水祭を寿ぎ、当社では同日に「仲秋祭」を行い、昔は若宮楽の奉納に併せて「市」が開かれていたことから「楽の市」とも呼ばれ、流鏝馬や放生会なども執り行われておりました。

御神縁を戴く石清水八幡宮をご紹介しますと共に、将来参拝研修旅行を計画しておりますので、皆様のご参加をお待ち申し上げます。

【石清水八幡宮のご紹介】

《御祭神》

○中御前

応神天皇

○西御前

比咩大神

○東御前

神功皇后

《御由緒》

平安時代初め、清和天皇の貞観元(八五九)年、南都大安寺の僧・行教は宇佐神宮に籠り、八幡大神の『吾れ都近き男山の峯に移座して国家を鎮護せん』との御託宣を賜り、同年男山の峯に御神霊をご奉安申し上げたのが起源です。

以来、国家鎮護の杜として皇室のご崇敬は益々厚いものとなり、伊勢の神宮と共に二所宗廟とも称され、明治の初めには官幣大社に列せられ、「男山八幡宮」と改称されましたが、「石清水」の社号は創建以来の由緒深



石清水祭

い社号であるため、大正七年には再び「石清水八幡宮」と改称され現在に至ります。

清和天皇の嫡流である源氏一門は八幡大神を氏神として尊崇し、全国各地に八幡大神様を勧請しました。源義家は石清水八幡宮で元服し自らを「八幡太郎義家」と名乗ったことは有名です。

勅祭「石清水祭」は、九月十五日午前二時、御本殿にて御鳳輦(神輿)三基に三座の神霊を奉遷する儀式に始まり、御本殿を出発、山麓へと下り頓宮に入御、次いで奉幣祭が厳修されたのち、放生川にて魚鳥を放つ放生行事が行われ、御鳳輦は同日夕刻、山上へと還幸になります。

紀田宮司家の始祖である武内宿禰を祀る「武内社」や「徒然草」に出てくる「高良神社」もお参り戴けます。(石清水八幡宮HPより)



高良神社



武内社



男山遠望

今秋の神事予告  
秋季祖霊祭・観月祭・神嘗奉祝祭・明治天皇祭

【秋季祖霊祭】

九月二十三日(金)

秋分の日、神道を宗旨とする「開運祖霊講」三十五世帯の講員が祖霊社にて行う祖霊祭です。

前回の春季祖霊祭(三月二十一日・春分の日)以降逝去された講員のご家族の御霊及び今回、新たに入講された講員の御祖神の御霊を合祀すると共に凡そ四百柱の御霊のお心をお慰め申し上げ、講員各位の彌榮と健勝とを祈念致します。

お住まいの場所に関わらず、神道を宗旨とされる方はどなたでも入講できますので、ご希望の方は宮司宛てにご連絡をお願いします。若宮八幡社社務所  
0978(62)3148

【観月祭】

十月十日(月)午後五時

満月の夕刻、神様に神饌(お供え物)に加え、「雅楽」を奏樂し、神様の御心をお慰め申し上げる神事です。

この日の為に、七名の氏子さんが雅楽の研鑽を積み重ねて、一所懸命心を込めて紀田宮司と共に雅楽を奉納演奏しますので、皆様のお越しを心よりお待ちしております。

〈奉納雅楽の曲目〉

盤渉調 音取

平調 越殿樂

音取 越殿樂

越殿樂 陪臚

参加自由・無料(予約不要)  
練習生随時募集中(無料)  
練習日は個別に対応します

【神嘗奉祝祭】

十月十七日(月)午前六時

伊勢神宮に於いて、十月十五日から二十五日にかけて、その年の新穀を天照大神に奉り、ご神徳に感謝申し上げる由緒ある神事「神嘗祭」。十日間のうち内宮で執り行われる日である十月十七日(月)を寿ぎ当社に於いても奉祝祭を行います。

【明治天皇祭】

十一月三日(木)午前六時

明治天皇のご聖徳を偲び奉り感謝申し上げます。毎日の朝御饗祭同様に神事に於いて「教育勅語」と「五箇条の御誓文」を奉読します。参加自由・無料(予約不要)



秋季祖霊祭



龍笛のお稽古



内宮正宮



神宮大麻をお祀りする神棚

令和四年は明治五年（1872年）に神宮大麻が全国頒布されるようになってから百五十周年の記念すべき年です。神宮大麻とは、家庭で皇大神宮のご神徳を仰ぎ、拝礼するための御神札です。神宮大麻の「大麻」とは、本来「おおぬさ」と読み、神々への捧げ物、お祓いの際に用いられる木綿や麻を指します。

平安時代の終わり頃から、神宮と人びとの間を取り持つ御師と呼ばれる人たちが登場します。この御師が、参宮者のために祈禱を込めて配布した「御祓大麻」が伊勢の御神札の起源と言われています。

明治時代となり、日本が近代国家への道を歩むにあたり御師制度は廃止され、御祓大麻の配布も停止されましたが、人びとから「大神宮さまの御神札」を待ち望む声が

沸き起こりました。こうして声を受けて明治五年（1872年）、新たに「神宮大麻」を神宮司庁が奉製し、全国の家庭に頒布されることになったのです。

戦後は、神社本庁が神宮司庁より委託を受け、都道府県神社庁及び支部を経由して、全国の神社を通じて頒布しています。

参考資料 神社本庁刊行『神宮大麻頒布奉仕者のために』  
『全国の神社がなぜ神宮大麻を頒布するのか』

若宮八幡社に於きましても、大分県神社庁及び速見支部を経由して、当社総代また地元区長様にご依頼申し上げ、各ご家庭にお頒ちしており、頒布従事の方には心より篤く感謝申し上げます。

神宮大麻は、年末にかけて若宮八幡社総代また地元区長様により各ご家庭にお届け致します

# 神宮大麻全国頒布百五十周年記念

## やおよろずのかみがみ

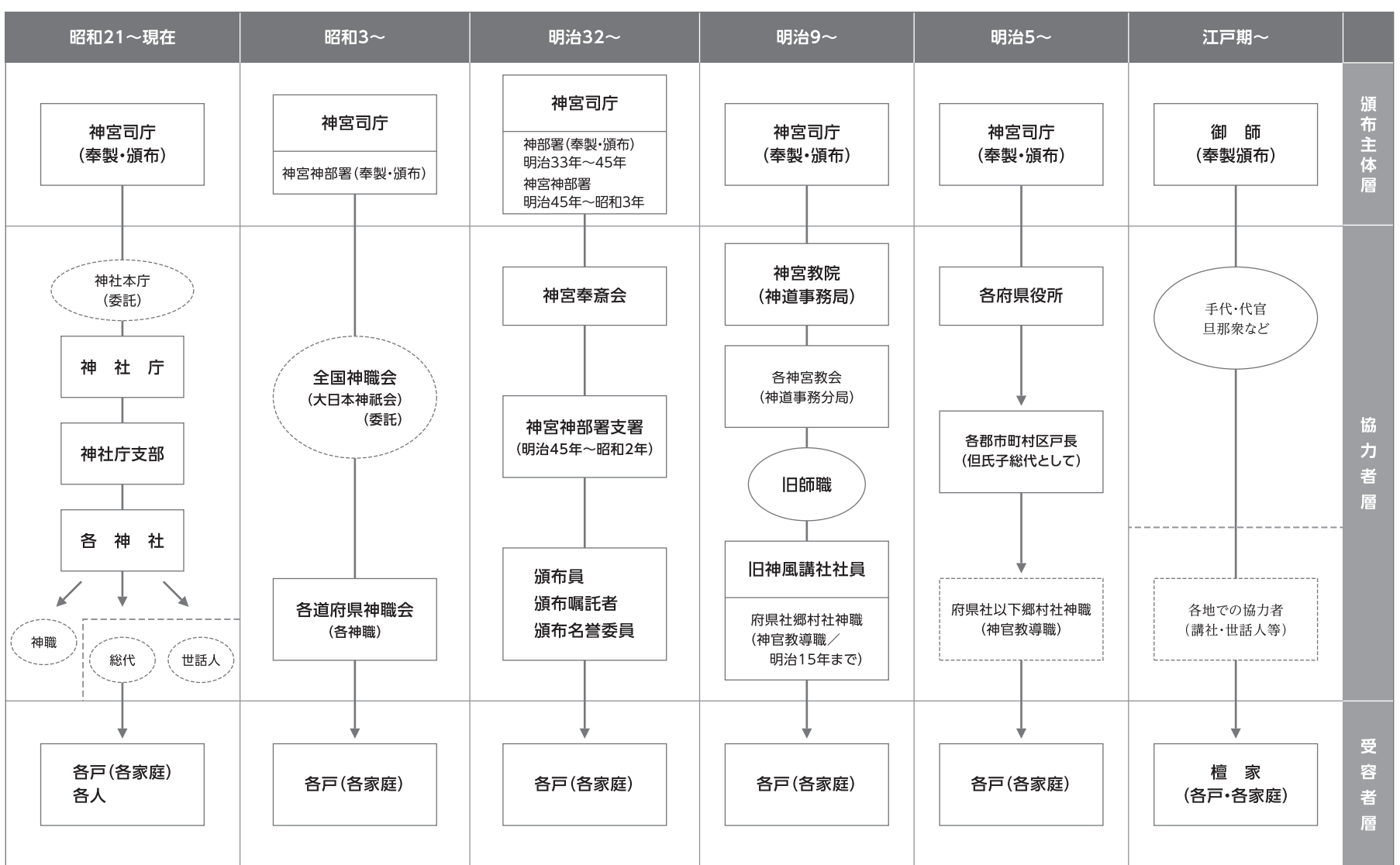
# 伊勢神宮の特集2

八百萬神々の総氏神

今回は神宮大麻と神宮曆について

### 神宮大麻頒布 組織の変遷図

神宮大麻に関する研究報告書 P66-67より抜粋 (一部修正)



神宮大麻頒布組織の変遷図(神宮大麻に関する研究報告書より抜粋)



神宮大麻

【神宮大麻の奉製】

神宮大麻は、奉製にあたって様々な祭典が行われています。

こうした祭典を経て神宮司庁頒布部では大麻を奉製する専門の方々が毎朝潔斎の上、白衣に着替えて御正宮を遙拝し、一体一体心を込めておつくりしています。

《大麻曆奉製始祭》

一月上旬

神宮大麻及び曆の奉製が過ちなく清浄につくられるよう祝詞が奏上され、その年最初に奉製される大麻に印が捺されます。

《大麻用材伐始祭》

四月中旬

大麻の中心となる用材を伐り出すにあたり、内宮宮域林の祭場で斎行されます。

《大麻修祓式》

奉製された神宮大麻は月に数度、頒布部の祭場で丁重にお祓いされます。

《大麻曆奉製終了祭》

十二月下旬

神宮大麻と神宮曆を滞りなく奉製し終えたことを奉告するお祭りです。

【神宮大麻の頒布】

神宮大麻の頒布に際しても様々なおまつりが行われ、

頒布奉仕者の手で各家庭に届けられます。

《神宮大麻曆頒布始祭》

神宮大麻及び曆が多くのご家庭に無事届けられるよう、内宮神楽殿で斎行されます。

神宮本庁の役員をはじめ、全国の神社庁長などが参列し、翌年のための大麻と曆が神宮大宮司より神社本庁統理に授けられ、続いて各



御祓大麻



大麻曆奉製始祭(一月上旬)



大麻用材伐始祭(四月中旬)



大麻修祓式



神宮大麻曆頒布始祭(9月17日)

神社庁長に伝えられます。

《大麻曆頒布終了祭》

翌年の三月五日 全国崇敬者にお頒けする神宮大麻と神宮曆の頒布終了を奉告するお祭りです。

【家庭のまつり】

神棚は、一般的には御神札を納める小さなお社(宮型)のことを言います。

台所には荒神さま、水場や井戸には水神さま、庭には屋敷神が祀られている家もあります。

また現在も家を建てる際には、その場所を祓い清め、土地の神様に奉告する地鎮祭が行われ、続いて上棟祭や竣工祭といった様々なおまつりごとが行われます。

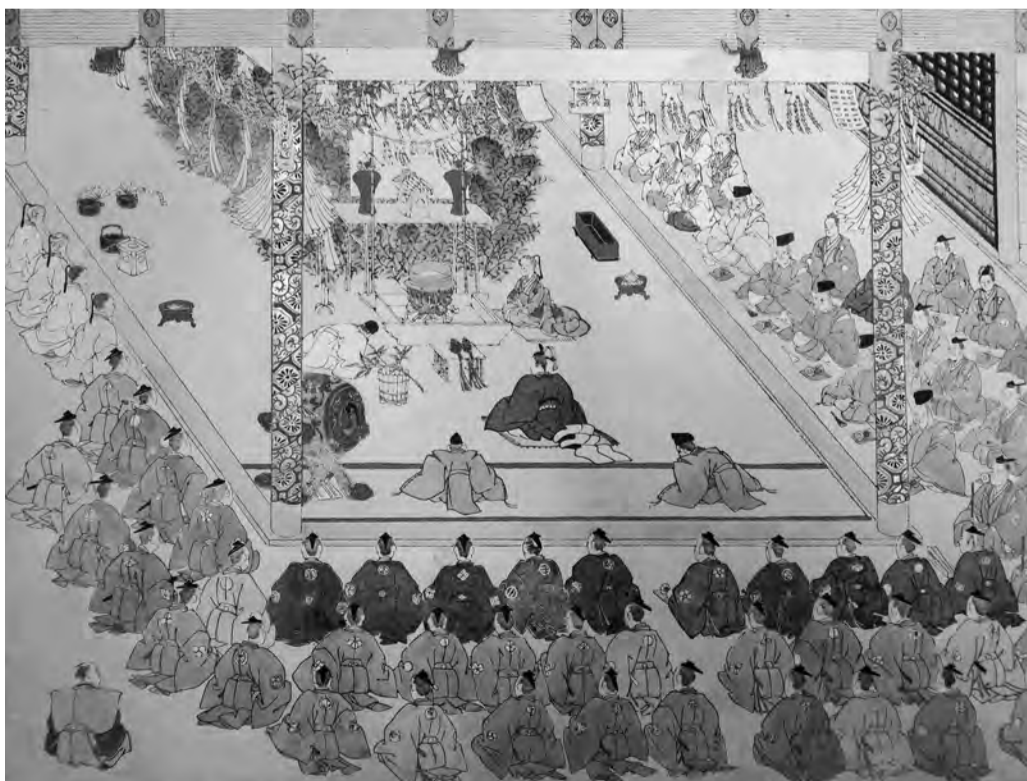
参考資料

神社本庁刊行

『神宮大麻頒布奉仕者のために』

小学館

『図解 伊勢神宮』



伊勢大々神楽之図

若宮八幡社の社頭においても神宮大麻及曆をお頒けしておりますので、お問い合わせ下さい。

# 春から夏にかけての神事のご報告 祈年祭・夏越大祓・御霊祭を厳粛に斎行しました

【祈年祭】四月六日(水)

秋の稔り多きことを神様  
にお願いする神事です。

対比する形でお蔭を以て  
秋に稔り多きことに感謝申  
し上げる神事が「新嘗祭・  
十一月二十三日(水・勤労  
感謝の日)」です。

午後から奉納される予定  
の「御田植祭」は感染症対  
策の観点から中止となりま  
した。

祈年祭に併せて、当社総  
代の就退任の報告を行い、  
この度退任された5名の退  
任総代に記念品を贈呈致  
しました。

【夏越大祓】六月三十日(木)

令和四年上半期の半年間  
に、知らない間に積み重なっ  
た罪や穢れを、紙で作った

「人形・ひとがた」に託し、  
元宮である西下司浜田社の  
近く八坂川に自生する「茅」  
で作った茅の輪を三度くぐ  
り、清々しく残りの半年間  
を過ごそうと大勢の参詣者  
が参列になりました。

併せて飾らなくなった人  
形や、鯉のぼりなども御霊  
抜きを奉仕の上お焚き上げ  
を行う「人形昇神祭」も斎行  
されました。次回、年越大祓  
は大晦日に行います。

・水無月の

夏越の祓いする人は

千歳の命

延ぶと言ふ也

・思うこと

皆尽きねとて麻の葉を

切りに切りても

祓いつるかな

・千早振る神の御前に

祓いせば

祈れることの

叶わぬは無し

【御霊祭】八月十五日(月)

大東亜の戦の矛を治めた  
この日に、戦に斃れた英霊の  
御心をお慰め申し上げ、東  
京の武道館で行われた「全  
国戦没者追悼式」の正午の  
時報に併せ黙祷を捧げ申し  
上げました。

また境内末社の祖霊社に  
於きましても、凡そ四百柱  
の開運祖霊講のご先祖様の  
御霊安かれと祭詞を奏上致  
しました。

杵築城近くの青筵神社に  
も、散華された英霊が合祀  
されており、日頃杵築ロータ  
リークラブの方々により清  
掃奉仕が為されますこと感  
謝申し上げますと共に、将  
来この青筵神社に於いても  
慰霊祭が斎行されるよう祈  
念するばかりであります。



祈年祭 (退任総代に記念品贈呈)



祈年祭 (舞姫のおふたり)



参拝者には参拝後、撤下米を頒賜



夏越大祓 茅の輪くぐり神事